

一人ひとりが個性を生かして
社会で自分らしく輝けるように



Profile

1973年福山市生まれ。大学卒業後、実家の酒問屋を継ぐが36歳で店をたたむ。その後、西千葉でパソコン教室「トライワープ」を運営する虎岩氏との出会いを機に、2011年「トライワープ福山校」を開校。2014年に「NPO法人ひとまちスタジオ」を設立する。今年7月に開校した「こども未来創造大学」では、実践的なIT学習や自分自身のキャリアを考えるプログラムが受講できる「共通学科」(月額3,240円)をはじめ、様々なコースが用意されている。
●NPO法人ひとまちスタジオ
<http://www.hitomachi-studio.org>

今、会いたい街の顔
備後人

取材文/池田 佳奈美(本誌)
写真/中山 みよ(本誌)

・ vol.32 ・

こども未来創造大学

ひらおか けんじ
理事長 **平岡 顕治**さん

ITを取り入れて
生活をより豊かに

子どもたちに混じって、とびきりの笑顔を見せる平岡顕治さん。彼が2014年に立ち上げた『NPO法人ひとまちスタジオ』の活動理念は、世代やレベルに応じたコンピューターを活用できる環境づくりにより、地域の人々の生活をより豊かなものにする。そして、そういった活動を通して、人と人、人と町の繋がりを作る。例えば、子どもを対象にしたロボット教室や主婦に向けた無料のIT講座、シニア向けパソコン教室など、取り組みは今も増え続けている。NPO発足からわずか2年、子どもからシニアまでそれぞれの年代を対象とした取り組みに次々と挑む、そんな彼を突き動かすものは一体なんだろう。

家業の倒産と
NPO法人設立

福山市にある酒問屋の次男として生まれた平岡さんは、大学卒業後大手ビル会社で修業を積み、家業を継いだ。しかし、次第に酒類の間屋業は衰退。経営改革に奔走するも業績は振るわなかった。14年間従



ロボット制作教室は備後エリアで8教室を展開している。今後海外にも開校予定。組み立てから動作のプログラミングまでを実践する。

事した家業を辞職し、問屋業を別の角度から見えてみたいという想いから、地域通貨を導入している町を視察してまわっている時のことだった。ある町で、大学生が先生となり地域商店にパソコン操作を教える教室「トライワープ」の代表・虎岩雅明さんと出会う。「パソコン指導を通じて学生と住民の交流を増やしたい」という彼の活動理念に

共感した平岡さんは、ITを活用したコミュニケーションのノウハウを学び、子育て中のママが地域のシニアにパソコン指導をする「トライワープ福山校」を設立した。この活動を機に「ひとまちスタジオ」を立ち上げ、以降はロボット教室を開いたり、町で活躍するアスリートなどを「〇〇超人」と名付け、超人たちから生き方や想いを聞く講

誰もが見つけられる
輝ける居場所

「近年、新人社員の3年以内の離職率が高いといわれているのは、やりたい仕事や適性に合った仕事に就いている若者が少ないからではないか? それならば、子どもたちがいろんなことを経験できて、ゆとりを持って将来を考えられる環境を作ろう」。思い立ったら善は急げと、急ピッチで福山市昭和町のビル3階に「こども未来創造大学」を完成させた。IT学習を軸に、ロボット制作や英会話など好奇心をくすぐるコンテンツを展開し、プログラムを通して様々な体験ができる教育支援機関だ。この大学のユニークな点は、4歳から大学生まで幅広い年齢層を受け入れているということ。例えば4歳で入学すれば、大学卒業まで18年にわたってその成長を見届けられる。つまり、一人の子どものために、長い年月をかけて見出した特性や個性を生かしたキャリア支援ができるのだ。「学校の勉強は面白くないと思っている子や、なかには発達障害を抱



「世界に繋がる会社を作りたい」という中学生との出会いを機に、将来を考える講演会「ひとまち超人ロケット号」を今年3月～6月に5回開催。

える子もいます。しかし彼らもロボット作りの中で、器用に部品を組み立てたり、アイデアを炸裂させたりと、才能を輝かせる場が必ず見つかる。得意なこと、やりたいことと出会う場を作り、僕はこれができるんだと自信を持たせて社会に送り出すのが僕の使命です」と平岡さん。今年7月の開校から1ヵ月で既に在籍数は80人を超え、福山の中から幅広い年齢の子どもたちが登校している。子どもたちにとって好奇心がくすぐられる、遊びのようなプログラムを通して、創造力を育む学びの場であり、年齢学区の違う生徒との交流の場。ここでしかできない経験を重ね、自分らしく生きる道を見つけた子どもたちが、誇らしげな表情で未来へ羽ばたく姿が目